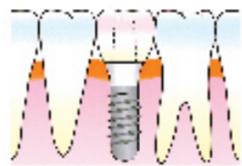


失った歯の治療方法

出典：『安心のインプラント治療』（東洋出版）玉木仁著

治療方法	取り外し入れ歯	ブリッジ	インプラント(人工歯根)
構造			



玉木 仁(たまき・ひとし)
1960年新潟県生まれ。新潟大学卒業。95年、日本橋で半世紀に渡り歯科医業を営んでいる義父・柴田一美の後を継ぎ、院長となる。02年インプラントのオペ専用の歯科医院として日本橋インプラントセンターを開院。国際インプラント学会専門医・指導医。日本口腔インプラント学会専門医。アメリカインプラント学会、ヨーロッパインプラント学会各アクティブメンバー。10年前から究極のアンチエイジングであるインプラントの普及、啓蒙に努めている。

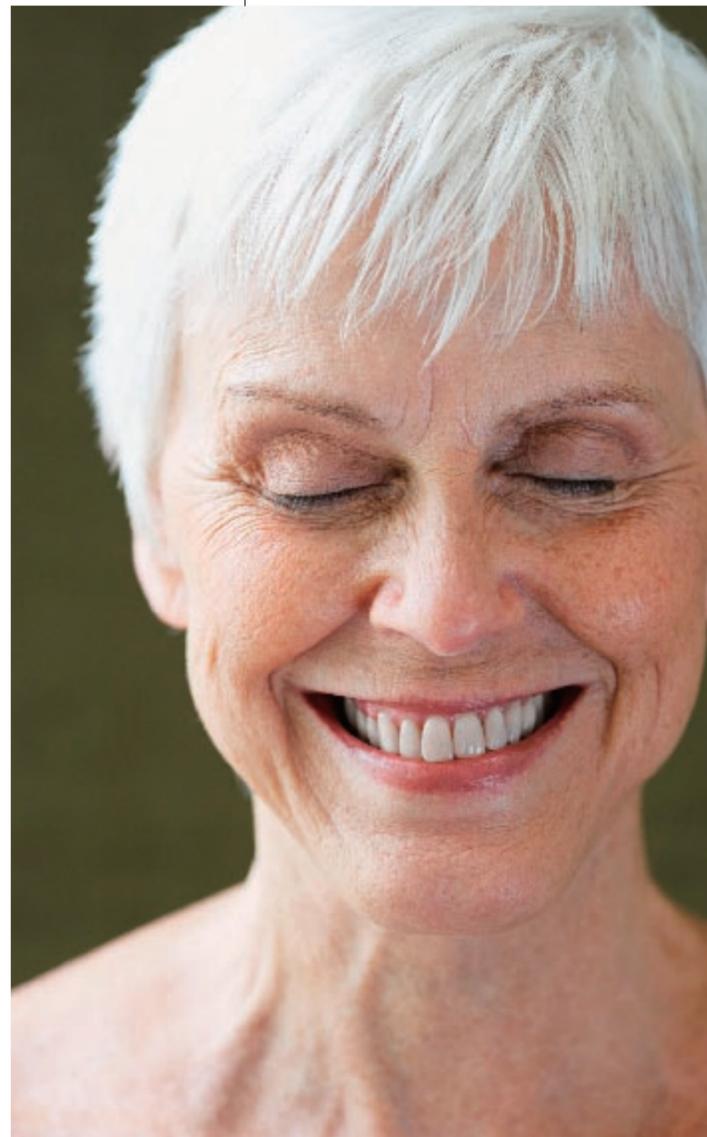
問い合わせ
日本橋インプラントセンター
www.implant-tv.net
TEL 03-3275-2340

099 <http://www.7hills.ne.jp/>

もあるという。そして、毎日の食事によって、入れ歯などパネのかかっている歯には想像以上の加重がかかり、残存歯が歯周病、さらには抜歯という悪循環に陥る可能性も高いという。そこで、玉木氏が治療と研究を続けているのが、インプラント(人工歯根)なのである。骨の中にチタン製の歯根(インプラント)を埋め込んで義歯を支えるというのがその大まかな仕組みだ。両隣の健康な歯に影響

も与えず、顎の骨にしっかりと固定されているので治療後はしっかりと噛むことができるのだ。また、顎の骨に力が加わるので、骨が痩せてしまうことも防ぐのだという。インプラント治療の歴史は意外にも古く、1900年代の半ばまで遡る。その間、いろいろな材質、固定法が試みられ、強固に骨と結合し一体化する「チタン合金」を用いた骨結合型の治療が現在主流になっているという。玉木氏は、「歯に比べれば骨は可逆的、つまり再生能力が高いのです。不可逆的な治療より、可逆的な治療を選択するべきです」と、ほかの歯に負担をかけないインプラント治療

の有用性を語る。そして施術をする上で大切なことは「施術医の選択」なのだという。手術症例数が多いことはもちろん、「定期検診が充実し、クリーニングが頻繁に行われること、そして勉強熱心な歯科医院を見極めることが大切です」。約50年にわたり発展してきたインプラント治療、「歯を残すための治療」という認識が広まってきた現在でも、「学び続けることはまだまだあります」と玉木氏。「歯福」を求める人々のため、インプラント治療は今日も進化を遂げている。※今回はインプラント治療をより具体的に紹介、また実際の手術について詳しく説明します。



究極のアンチエイジング インプラント入門

Q.O.L(人生の質)とは何か。人それぞれに、その答えは異なるだろうが、ひとつのシンプルな回答として、「笑顔で日々を過ごすこと」が挙げられるのではないだろうか。これは表面的なことだけではなく、口元、歯の健康は体の臓器や骨格といった身体全体の健康にも繋がることを考えればなかなか奥が深い。そこで「歯」をテーマにした予防医療に取り組んでいる日本橋インプラントセンターの玉木仁さんをお迎えし、人生の質を上げる「歯の力」、そして近年「歯を残す治療」として注目されているインプラントについて、今回から3回に分けて教えていただく。

SEVEN HILLS/取材・文 下村 孝/写真(人物)
Text by SEVEN HILLS Photographs by Takashi Shimomura

人生の質、キーワードは「歯」

失ってから、その大切さに気がつくものは多々あるが、中でも「歯」の喪失は精神的にも肉体的にも想像以上に深いダメージを私たちに与えるという。長らく歯科医として活躍している日本橋インプラントセンター院長の玉木仁氏は「前歯を失えば、審美性の弊害により、口を開けることがはばかられ、笑顔が少なくなると。奥歯を失えば好きなものが食べられず、毎日の食事に制限が出てしまい身体内部の疾患の原因になる」と警告する。しかも噛み合わせが悪くなることで、身体全体の歪みをも引き起こしてしまうのだ。白い健康的な歯であれば、思いつき笑い

い、話し、好きなものを味わうことができる。まさに究極のアンチエイジングの要となる歯だが、同時に一度削ってしまったと、もう再生することができないというかけがえのない存在でもあるのだ。医科と歯科の一番の違いはその「再生能力」にあるのだという。玉木氏曰く、「歯は一度失ってしまったら、二度と生えてきません。歯を削る、抜くという治療はなるべく回避するように患者さんにすすめています」。では、不幸にも歯が一本でも無くなってしまった場合、どのような選択肢があるのだろうか。

第二の永久歯、 インプラント(人工歯根)

そもそも歯は歯茎の外に出ていて目で見える部分の「歯冠」と、歯茎の中にあり、顎の骨と歯冠を固定している「歯根」の2つの部分から成り立っている。問題は抜歯などの治療で歯根が失われた場合だ。多くの場合、両隣の健康な歯を削って、人工の歯

冠を被せる「ブリッジ」または残っている歯に金属製のバネなどを用いた「入れ歯」という治療法が選択されている。しかしブリッジでは人工的に被せた歯は虫歯、歯周病になりやすく、再治療の繰り返しにより、両隣の歯まで抜歯に至ってしまうこと